

大国県議の質問(続き)

児童クラブ支援員の処遇改善こそ

大国県議は、県が放課後児童クラブ支援員の確保策の一つとして人材派遣会社を利用しようとしている問題で「児童福祉の職場に人をモノ扱いする派遣労働を自治体が推進すべきではない。直接雇用が原則であることが求められる」と指摘し、変則的な労働時間や低賃金など労働環境の本質的な改善こそ必要と強調しました。

新田典利商工労働部長は、2015年の労働者派遣法改正の附帯決議にふれ、「派遣就業は臨時

尾村県議の質問(続き)

県民に県財政悪化の責任ない

県財政悪化の原因は、1990年代に政府が地方自治体に押し付けた大型公共事業最優先の施策にあります。

尾村県議は「財政悪化の責任は、県民にも、もちろん子どもたちにもない」ことを強調。そして、県が2005

上げ、「複数の支援員で保育にあたることは、子どもに豊かな遊びなどを保証するために欠かせない」と強調。「支援員が確保できないという理由で支援員の1人配置を可能にする対応は質を落とす手法。県として複数配置を追求すべきだ」と主張しました。

少人数学級費用対効果発言撤回を

丸山知事は議会での答弁で、少人数学級編制について「費用対効果論」を持ち込み、「県教委が効果検証で示した定量分析と数値データをみる限り、学力や不登校などについて財源に見合った効果が得られていない」と発言してしまいました。これに対し、大国県議は、県教委は定量分析で評価は困難としていると指摘。「知事の発言は教員

実効性ある原発避難対策に

昨年11月議会での尾村県議の質問に対し、県は「今後の原子力安全顧問会議の運営にあたり、自然災害対策、原子炉の安全対策、避難対策についてテーマごとの会議を開催する」と表明。尾村県議は今後の開催計画などを質しました。

また、避難対策の実効性向上のために避難先自治体や病院、社会福祉施設、学校、保育所、バス事業者など避難関係者を集めて現場の声を聞き、計画に反映させるよう求めました。

小松 行政側の事情って何ですか？
仁比 入口にあるのは財源でしょうね。仮設住宅の建設と提供は、国と県の財源。民間のアパートなどを借り上げて使用する「みなし仮設」は、家賃を大家さんに払うのは国及び県ですね。このお金を削ろうとする。その根っこにあるのは「自己責任だ」ということです。

小松 この国というのは、そもそも国民一人一人を大切にしない国なんじゃないかね。最近悪くなってきたのか、それとも、もともと国民一人ひとりを大切に尊重するという考えがない国なんじゃないか。

仁比 憲法に照らしてみると、国の主人公は一人ひとりの国民です。政治はもろもろ主権者一人ひとりのものです。生存権も、そして、その根底にある「人間として誰もが尊厳のある存在として」保障されるという憲法になったけれども、実際には国民が主人公の国になっていないということではないでしょうか。

小松 行政のトップなどが結構見識を持って、被災者に優しいというところはあるんですか。
仁比 走りになったのは鳥取県の片山知事ですね。2000年の鳥取西部地震のとき、1995年の阪神淡路大震災のとき、「住まい」というのは私有財産の典型だから再建支援は憲法違反だ」とまで言っただけを向けたのが自民党政治です。そんな中で当時



西日本17県を駆け巡る 仁比聡平・前参院議員

仁比聡平 × 小松泰信 対談②

の片山県政は、一戸300万円の再建支援を始めるんですね。中央政府・自民党政府は憲法違反だと言っただけで、相当横やりを入れるんですが、それを現実していくというのが、西日本から始まっていくんです。

この間の西日本豪雨でも、当初、行政は考えていなかった木造の仮設住宅や、中小事業主へのグループ補助金、被災農家への農機具支援など、これまでの枠を超えた支援を実現してきました。中国電力の新成羽ダムで全国初の事前放流の実現や、川の樹木伐採や浚渫なども。最大の推進力は住民の声ですね。

小松 なるほどねー。
小松 僕は長崎出身なんです。仁比さんの活動地域は広いですね。それぞれの自治体や地域もさまざまな特徴を持っています。し、共産党の影響力が大きいとは言えませんが、大変ですね。

仁比 とにかくこの西日本17県は広いんです。共産党の候補者として活動を始めて20年。自民党政治に代わる政治を作ろうと、各県の支部や地方議員の皆さんと一緒に取り組んできました。

小松さんは、私とは違う角度からこの地域を見てこられて、政治を変えていくのにどんな条件・視点が必要かと。

小松 全国まわっていると、東京に対して「衰退した、衰退した」と言われるけど、でもどっこい地方は生きていますよ。

仁比 小松さんの書いておられる農業協同組合新聞電子版の「隠れ共産党宣言」を知った時に、その中身とともにそのタイトル「地方の眼力」に感銘を受けたんです。地方が衰退してきている一方だというのは違うぞと。そこを聞きたい。

(続く)